

1. 地震活動に関する資料

3頁 2006年9月の活動

想定震源域及びその周辺で発生した M 3.0 の地震は、
24日 新島・神津島近海 深さ 10km M3.1

南関東における M 3.5 の地震は、
7日 千葉県北西部 深さ 69km M4.6
8日 千葉県北西部 深さ 76km M3.7
9日 千葉県南部 深さ 24km M4.0

その他の地域で目立った地震は、
1日 房総半島南東沖 深さ 45km M4.6
7日 千葉県東方沖 深さ 38km M5.1
14日 茨城県沖 深さ 43km M4.1

2004年9月5日の東海道沖の地震(M7.4)のM4以上の余震は発生しなかった。

また、9月8日に愛知県東部の深さ35kmで、M2.9の地震が発生した。

9月27日～28日に神奈川県西部(箱根付近)で小規模な地震活動があった(最大M2.2、9月28日)。

4頁 2006年10月の活動(1日～25日)

想定震源域及びその周辺で発生した M 3.0 の地震は、なかった。

南関東における M 3.5 の地震は、
5日 千葉県北西部 深さ 69km M3.6
14日 千葉県南東沖 深さ 64km M5.1
15日 茨城県南部 深さ 63km M3.5
18日 東京都23区 深さ 56km M4.2
23日 茨城県南部 深さ 52km M3.7

その他の地域で目立った地震は、なかった。

2004年9月5日の東海道沖の地震(M7.4)のM4以上の余震は発生しなかった。

また、10月2日～3日に神奈川県西部(箱根付近)で小規模な地震活動があった(最大M2.2、10月2日)。

5 頁 東海地域の地震活動指数

固着域：ほぼ平常(4～6)。

愛知県：地殻内の中期がやや高い(7)が、他はすべてほぼ平常(4～5)。

浜名湖：西側では短期は平常(4)に回復、中期はまだやや低め(1)。東側では短期・中期ともにやや低い(2～1)。

駿河湾：短期・中期ともに平常(4)。

6 頁 固着域

(1997/01/01～2006/10/25、M3.5以上は1987/09/01～2006/10/25)

[フィリピン海プレート内]

M1.1以上で見ると、特段変化はない。2006年半ばごろからやや活発であったが、最近落ち着いており、平常の活動状況に戻っている。

M3.5以上の地震発生回数を見ると、2001年後半ごろから少ないことがわかる。1998年後半～2000年前半にも静穏な時期があった。

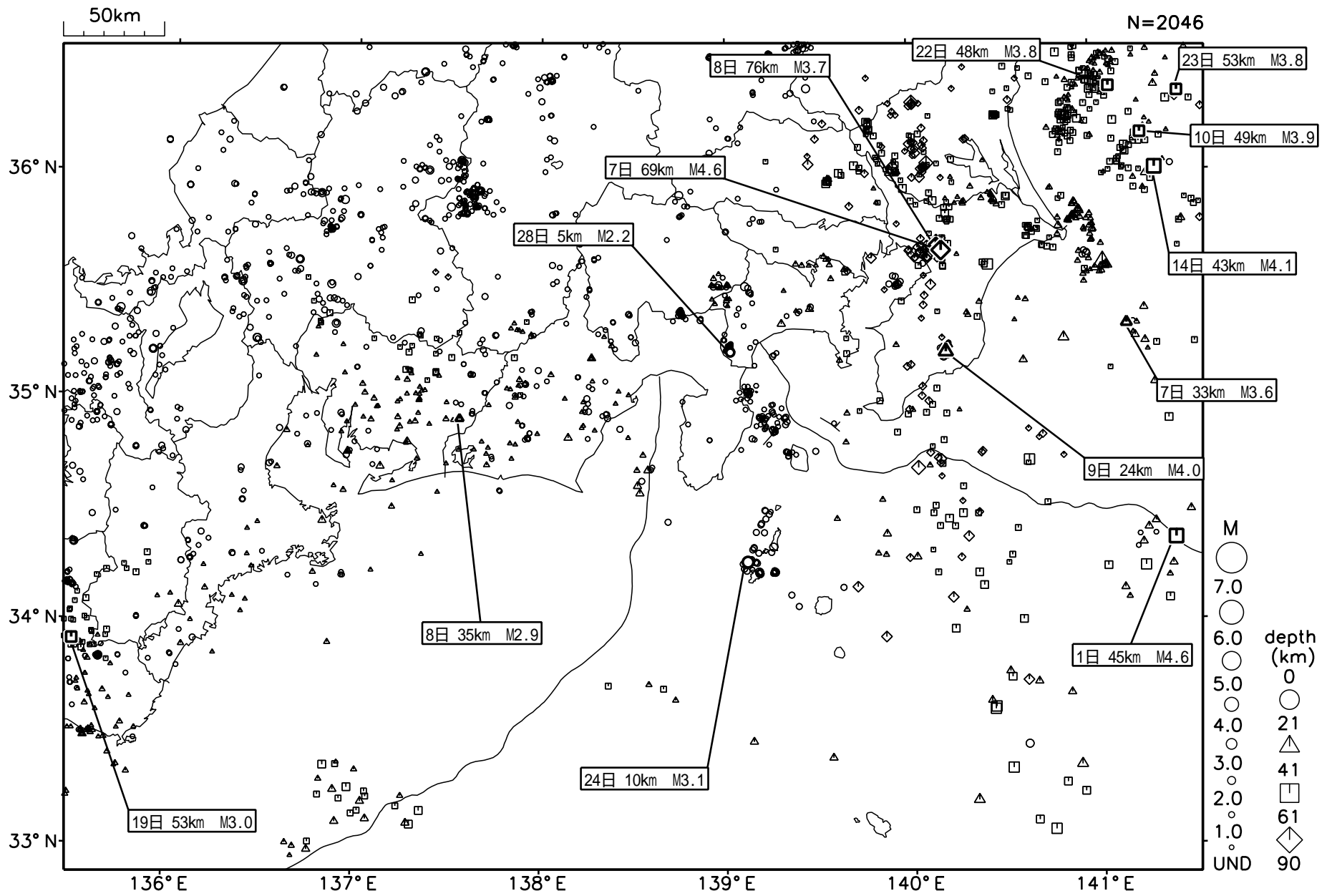
M2.0以上では2005年半ば以降やや静穏な様子が見える。

7 頁 浜名湖(1995/01/01～2006/10/25 M 1.1：フィリピン海プレート内)

[東側] 2000年後半から浜名湖北岸にあるクラスタの活動が低下し、東側全体の活動レベルが低下した状態が継続している。

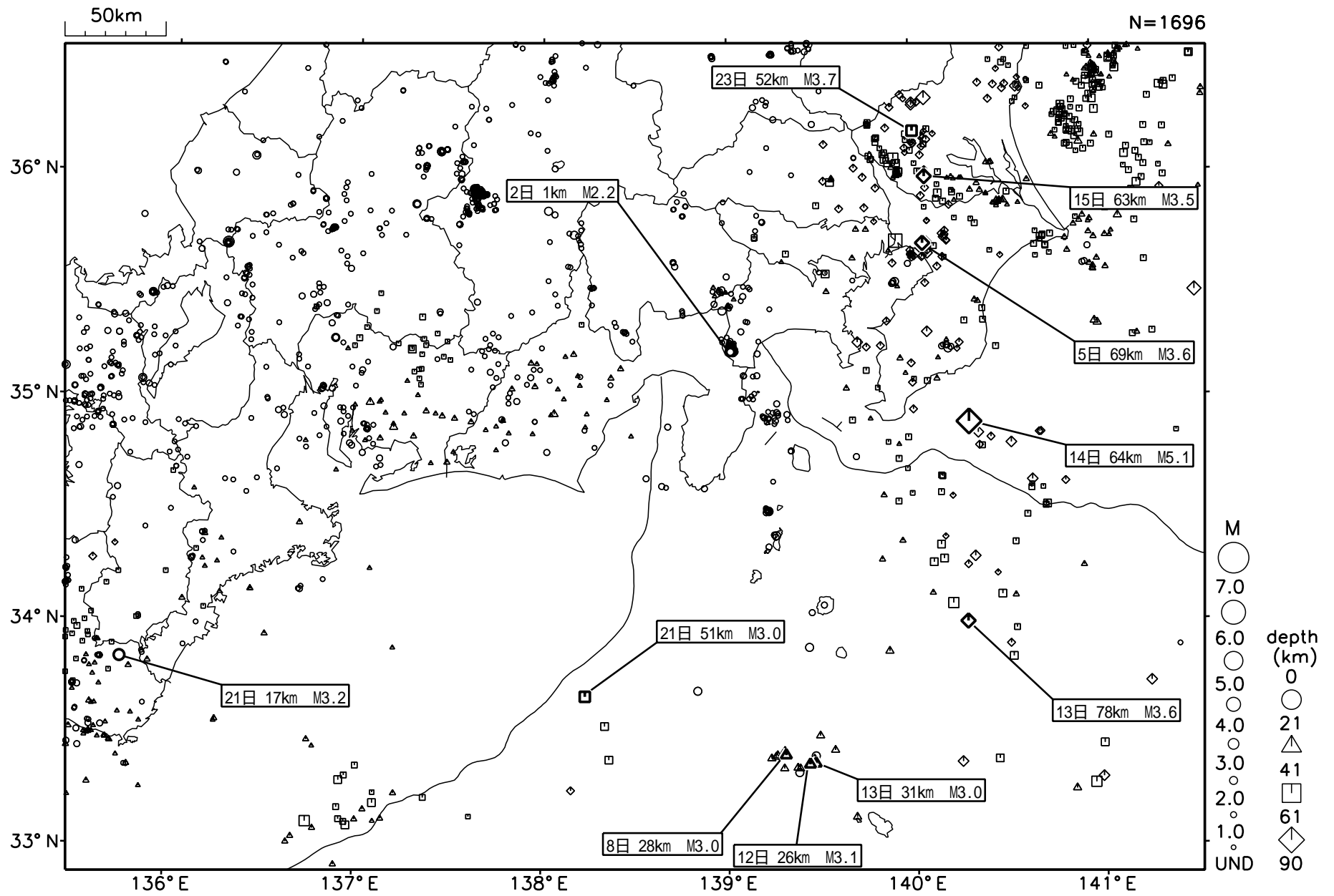
[西側] 最近地震活動が低調。

東海・南関東地域の地震活動 2006年9月



気象庁作成

東海・南関東地域の地震活動 2006年10月(1日~25日)



気象庁作成

東海地域の地震活動指数

(クラスタを除いた地震回数による)

2006年10月25日 現在

	① 固着域		② 愛知県		③ 浜名湖			④ 駿河湾
	地殻内	フィリピン海プレート	地殻内	フィリピン海プレート	フィリピン海プレート内			全域
					西側	全域	東側	
短期活動指数	5	4	5	4	4	2	2	4
短期地震回数 (平均)	8 (6.34)	6 (5.90)	5 (4.49)	12 (12.63)	1 (2.38)	2 (5.91)	1 (3.53)	6 (6.11)
中期活動指数	5	6	7	4	1	0	1	4
中期地震回数 (平均)	23 (19.03)	24 (17.69)	20 (13.46)	36 (37.90)	1 (4.76)	3 (11.82)	2 (7.06)	13 (12.22)

* Mしきい値：

M \geq 1.1：固着域、愛知県、浜名湖、M \geq 1.4：駿河湾

* クラスタ除去：

震央距離が Δr 以内、発生時間差が Δt 以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

$\Delta r=3\text{km}$ 、 $\Delta t=7\text{日}$ ：固着域、愛知県、浜名湖

$\Delta r=10\text{km}$ 、 $\Delta t=10\text{日}$ ：駿河湾

* 対象期間：

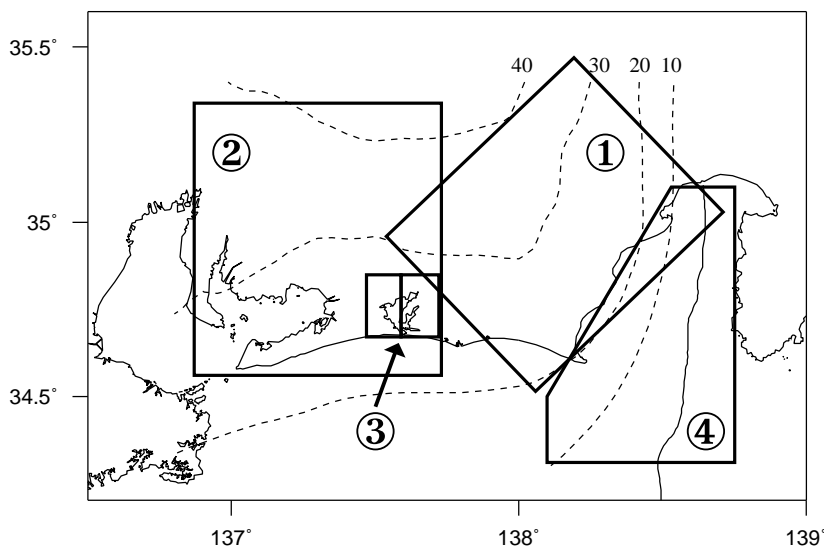
短期：30日間（固着域、愛知県）、90日間（浜名湖、駿河湾）

中期：90日間（固着域、愛知県）、180日間（浜名湖、駿河湾）

* 基準期間：

1997年－2001年（5年間）：固着域、愛知県、1998年－2000年（3年間）：浜名湖

1991年－2000年（10年間）：駿河湾



* プレート境界の等深線を波線で示す。

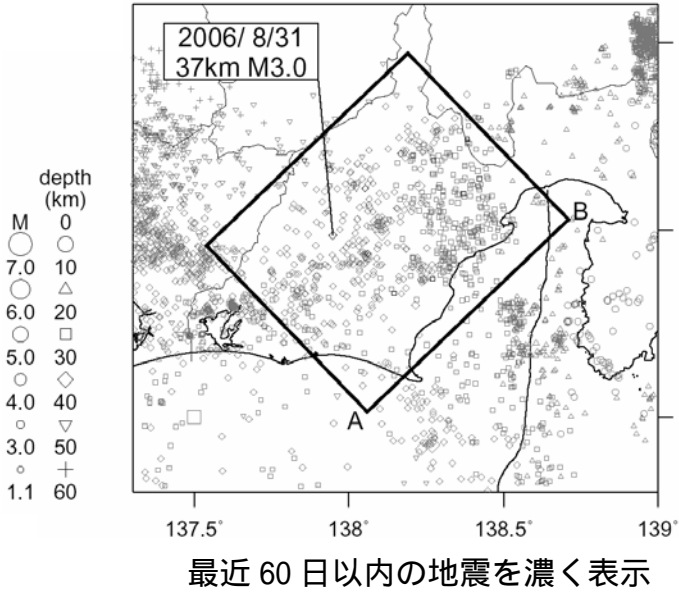
指数	確率 (%)	地震数
8	1	多
7	4	↑
6	10	
5	15	
4	40	平常
3	15	↓
2	10	
1	4	
0	1	少

固着域 (フィリピン海プレート内)

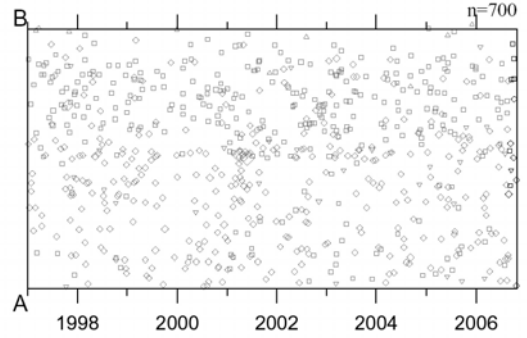
[M1.1 以上]

1997/1/1 ~ 2006/10/25

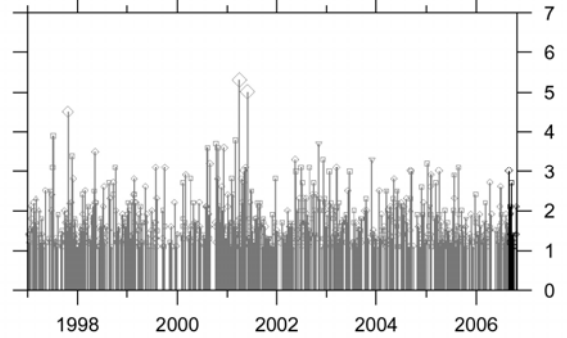
震央分布図 (クラスタ除去)



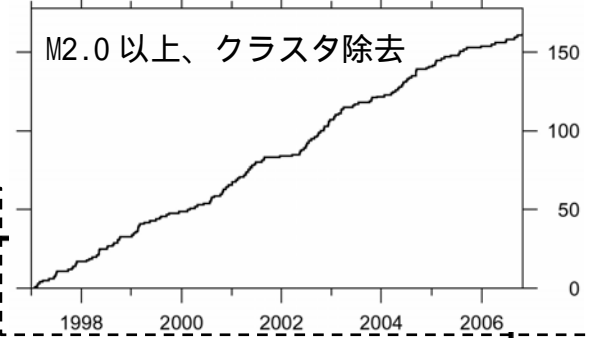
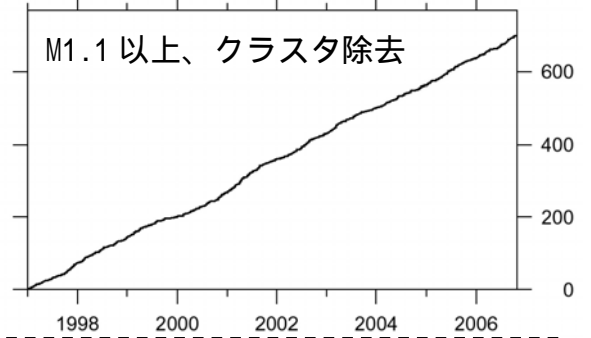
時空間分布図 (A B 方向)



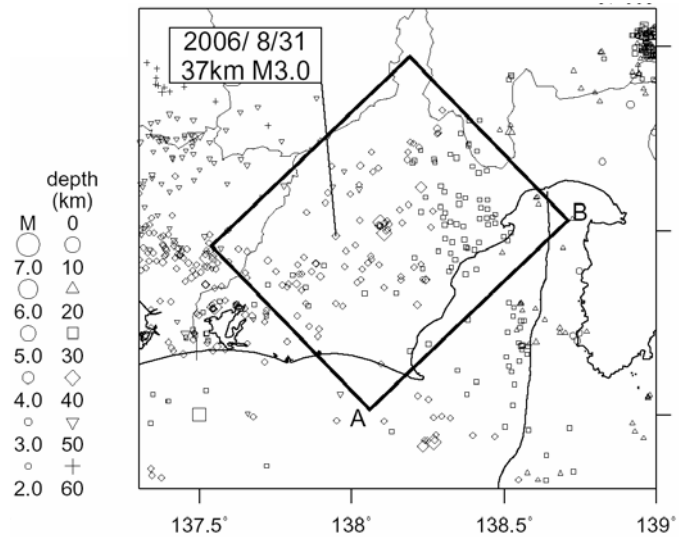
地震活動経過図 (規模別)



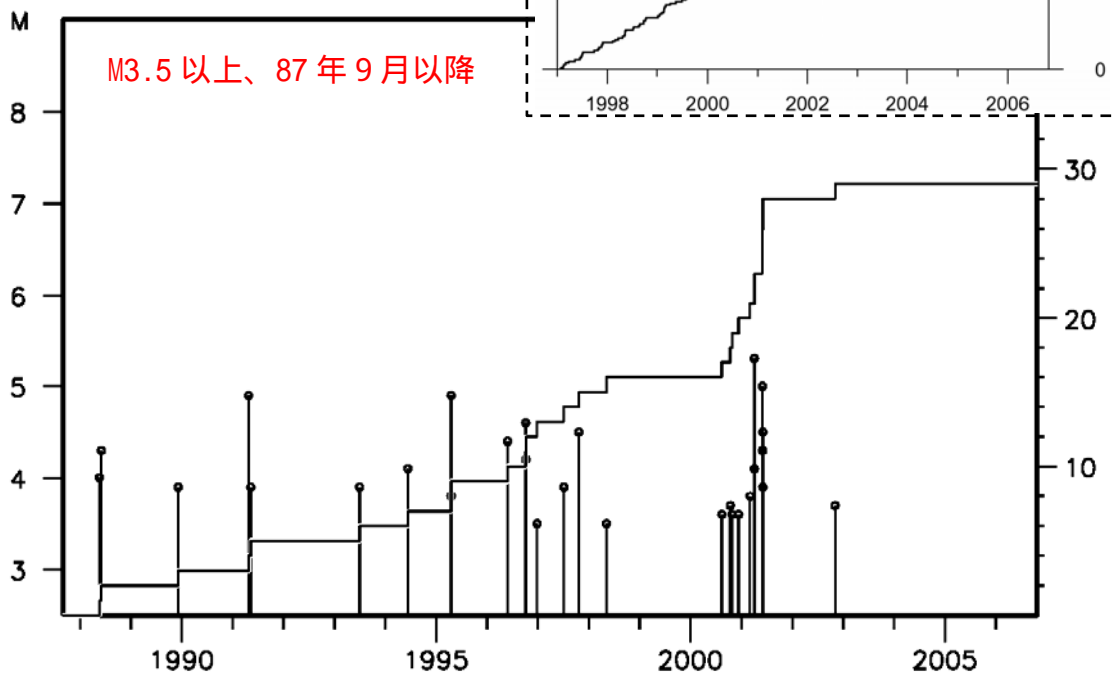
地震回数積算図



[M2.0 以上]



[M3.5 以上]



2001 年後半ごろから M3.5 以上の地震発生回数は少ない。98 年後半 ~ 2000 年前半にも静穏な時期があった。

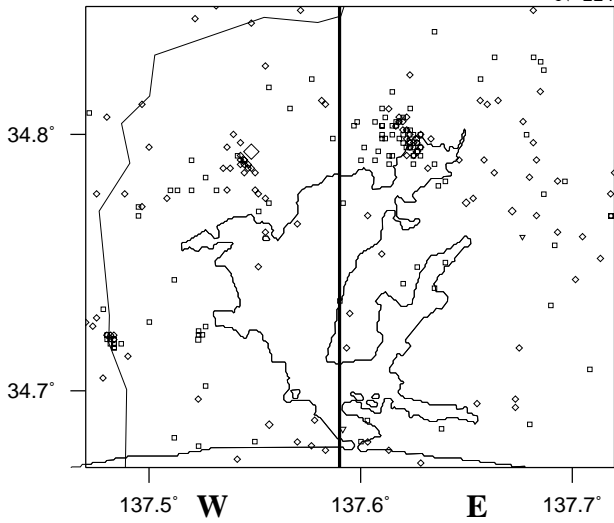
M2.0 以上では、2005 年半ば以降やや静穏な様子が見える。

浜名湖（フィリピン海プレート内）

1995/ 1/ 1~2006/10/25 M ≥ 1.1 * クラスタ除去したデータ

震央分布図

N=224

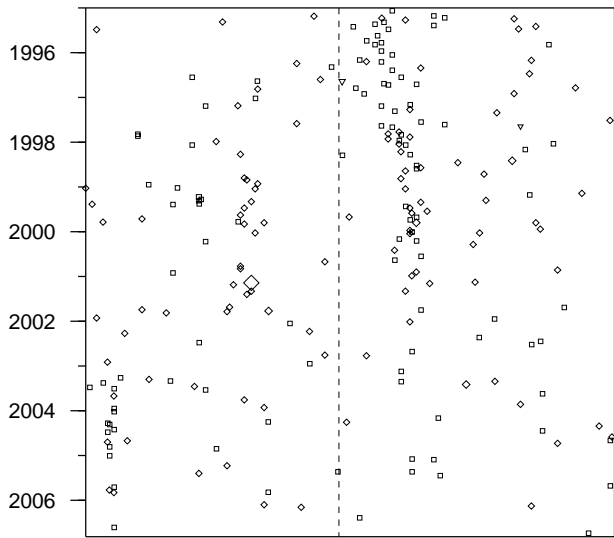
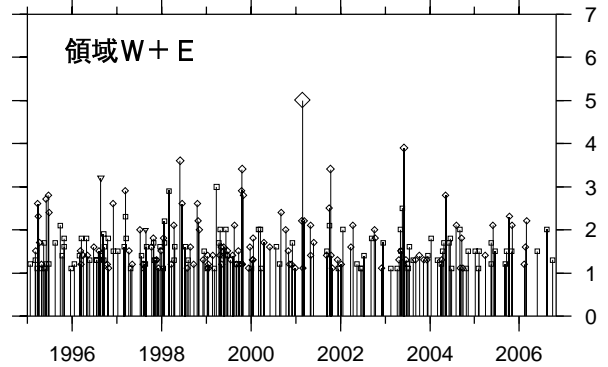


depth (km)

- M 0 ○
- 7.0 ○
- 6.0 △
- 5.0 □
- 4.0 ◇
- 3.0 ○
- 1.1 +

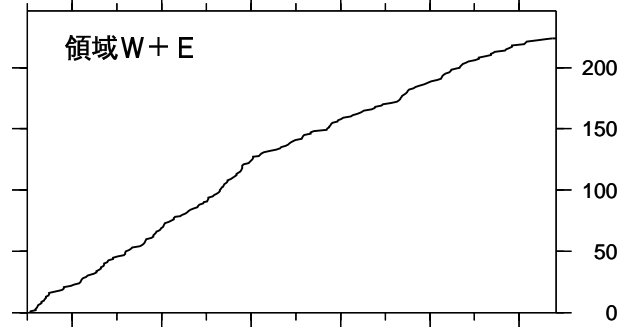
* 吹き出しは最近60日以内、M ≥ 3.0
地震活動経過図（規模別）

n=224



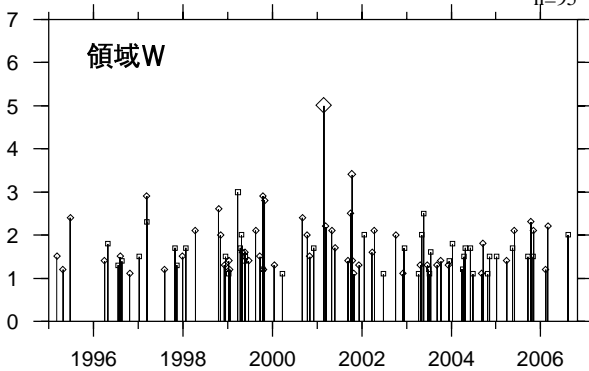
時空間分布図（東西方向）

地震回数積算図



n=95

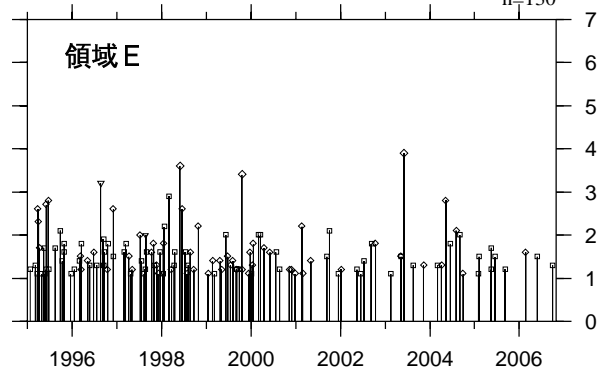
領域W



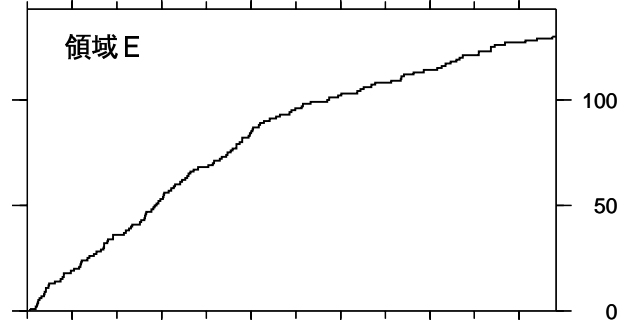
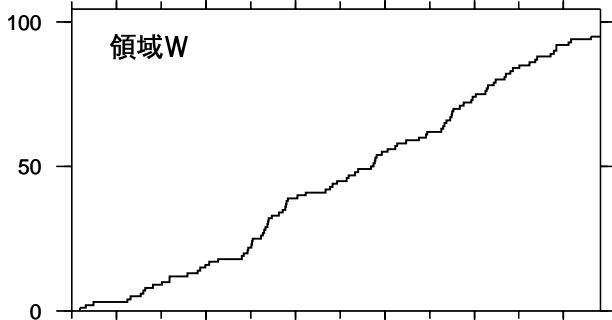
地震活動経過図（規模別）

n=130

領域E



地震回数積算図



2000年後半から浜名湖北岸にあるクラスタの活動が低下し、東側全体の活動レベルが低下した状態が継続している。西側も最近では静かになっている。